

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣先機関等利用マニュアル

2012年 3 月 6 日

派遣者氏名（専門分野）	旗手 瞳 （ 東洋史 ）
-------------	--------------

派遣期間	2012 年 2 月 2 日 ～ 2012 年 3 月 3 日
------	---------------------------------

**派遣研究機関**

国	都市	訪問機関
フランス	パリ	国立図書館（Bibliothèque nationale de France, BnF）の リシュリユー館（Site Richelieu）

**利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法等を記入）**

<p>①BnFのリシュリユー館（Site Richelieu）の改修工事の影響</p> <p>現在、BnFのリシュリユー館は目下、改装工事中である（2017年に完了予定）。そのため、リシュリユー館に収蔵してある文献の一部は、一時的に他の場所で保管されている場合があります。事前に各部門に問い合わせ状況を確認しておくことが望ましい。該当する文献は基本的に閲覧申請書の受理後、24時間から72時間以内にリシュリユー館に運ばれ、閲覧することができる。</p> <p>②敦煌文献の閲覧</p> <p>ペリオが将来した敦煌文献は、工事中もリシュリユー館の東洋写本部（Département des Manuscrits Orientaux）で保管されている。閲覧希望者は出発前に、i) 閲覧を希望する理由、ii) 調査の期間、iii) 文書の番号を記したメールを写本部（manuscrits@bnf.fr）に送り、許可をもらわなければならない。なおペリオ将来の敦煌文献の内、漢文文献については全てBnFのデジタルアーカイブGallicaで高画質写真を見ることができる。そのため、閲覧を希望する理由を記す際には、「なぜ実物を見る必要があるか」を明確に述べるのが重要である。</p> <p>③手続き・利用申請に必要な書類・利用証の購入</p> <p>利用者は最初の訪問の際、プレハブの建物に移された受付で図書館員と面接し氏名、住所、身分、年齢、利用の目的などを尋ねられる。利用申請に当たって必要な書類は、学生・院生の場合はパスポートと学生証である。日本にいる時、BnFのHPから事前登録（pre-admission）を済ませていれば時間の短縮になる。また図書館の各部門とメールでやり取りを行った場合、そのメールをプリントアウトして持参すると、さらにスムーズに手続きを進めることができる。BnFの利用は有料であり、利用者は受付での手続き終了後、図書館内の入口で利用証を購入する必要がある。35歳以下の学生の場合、15日間の利用証で25€、1年間で35€である。利用証は各部門の入口カウンターで預け、それと引き換えに机の番号札を割り当てられる。また手荷物は、最初の受付を行ったプレハブに設置された手荷物預かり所に預けるか、あるいは机の番号札をもらう際に申し出れば、ロッカーを使用することができる。</p> <p>④東洋写本部（Département des Manuscrits Orientaux）閲覧室の利用</p> <p>東洋写本部閲覧室は月～金は10:00～18:00、土は10:00～17:00まで開室している。敦煌文献を閲覧する際は、二枚の申請カードに氏名、日本の現住所、利用証の番号、身分、閲覧希望日、文書番号を記しインフォメーションカウンターに渡す。希望日前日にカードを書いておけば、希望日開室時には文献が用意されている。</p> <p>⑤その他</p> <p>BnFのリシュリユー館は日曜日及びフランスの祝祭日、そして通例では9月上旬の15日間は完全休館日となるので、HPでそれらの情報を確認しておく必要がある。また派遣者は派遣期間中、前日出したオーダーが通っていない、許可を出す司書が土曜日は出勤していないため文書を出すことができない、また図書館建物の管理者の不在で開館時間三十分を過ぎても館自体が開かないというアクシデントを経験した。このような不測の事態もありえるので、調査の際には日数に1～2日の余裕を持って臨むことを薦める。</p>
--